

## ○1番（朝長 勇君）〔登壇〕

おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、1番朝長勇の一般質問を始めさせていただきます。

まずは、先日の東日本大震災で亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、きょうの私の一般質問は、5項目、災害対策について、特産品開発について、お結び課について、みんなのバスについて、市長の政治姿勢についての5項目を通告させていただいております。

先日3月11日、テレビ、その他のメディアで現実のものとは思えないような地震、そして津波の被害が伝えられ、本当に何と申しますか、もう現実とは思えない、これはただごとではないと皆さんが感じられたことと思います。そして、被害の状況が次第に明らかになるにつれて、自分でも何かできることはないか、いても立ってもいられない、皆さんがそういう気持ちを抱かれたんじゃないかと思えます。ここ武雄市では、早速翌日から募金活動や支援物資の輸送、タウンステイ構想などの具体的な支援策が次々と打ち出されてきているのは本当に頼もしい限りでございます。その対策を打ち出される樋渡市長の判断力、決断力、そして行動力には心から敬意を表させていただきます。

また、行政ばかりではなく、市民の間でも何かしたい、何とかしたい、そういう気持ちを持った方がたくさんいらっしゃって、現地に行けなくても何とかしたいという思いを募って、先日の5月1日には、中央公園で元気よ届け！コンサートや、あとは有志の方たちが集まって、ワン・ラブ・武雄という組織が立ち上がり、本当に被災地のために何かできることをやっけていこう、そういう活動が行われております。本当に武雄はいいところだなと、つくづく感じさせていただいております。私もこの武雄に住み、生まれてきたことを本当に誇りに感じております。

そういった状況の中で、先日5月9日から15日までの1週間、仙台市若林区のほうに復旧活動の支援に行かせていただきました。実際に本当に被災地に出向いて活動ができた、そういう立場を与えていただいているということに感謝を申し上げます。

そこで、やはり最初に感じたこととしましては、被災の状況そのものはテレビ等でもう幾度となく映し出されておりましたけれども、やはり現地に行ってみると感じたのは、その範囲の広さといいますか、見渡す限りの物すごい被害の状況で、もう見るだけで途方に暮れるといいますか、これをどうやって復旧していくんだろうという非常にめまいを感じるような衝撃といいますか、を覚えたのを思い出します。そうはいっても、やはり一步一步復旧に向けての活動をして、一日も早い復旧を願うばかりでございます。

その作業に従事させてもらって感じたのは、市長の話等にもございますけれども、絶対的な人的支援が不足している、もう全く足りないですね。このままではいつまでかかるとやろ

うかと。10人で1週間行って、涙を流して感謝していただきましたけれども、私たちが帰った後、これから先どうやって乗り越えていかれるんだろうかと、本当に後ろ髪を引かれるような思いでありました。

そこで、けさの樋渡市長のブログを拝見させていただきましたところ、京都大学のほうで週末、何か災害の支援活動等について講演をなされていらっしゃるようです。そこで学生に対してボランティアの働きかけとかもなされているというような記事がありまして、非常にああいことだなと感じましたので、その講演における概要とか学生の反応等について、簡単な状況等を聞かせていただきたく思います。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

この週末、京都大学で講演をしてきました。実際ですね、京大らしいですね、告知下手、何もせんでですね、したのは私のツイッターだけで、もう集まるとも10人ぐらいかなと思えばよったら、100人以上来んさったわけですね。このツイッターのすごさですよ。それと、私が驚いたのは、京大の学生だけじゃなくて、滋賀とか大阪とか、さまざまところからお越しいただいて、いろいろ言いましたよ。その中で一番京大生の気持ちをつかんだのはチーム武雄なんですね。実際議員がつるはしを持っていくとは思わなかったと。しかも、不眠不休で、私も朝長さんがあそこまでするとは思わなかったですよ。もう本当にやったということで、政治家のイメージを変えたという人もあったですもんね。

実際私がそこで呼びかけたのは、ブログでも書きましたけど、あんたたちはお金はなかかもしれないばってん、暇もてあましてろうもんで、学生やけんが。被災地行ってこいて、もうボランティア足りんけんですよ。そのときの反応はゼロです。しーんとなったもんね。目を合わせても、今私の目の前に山口良広議員がおんさるばってん、こがん感じですよもんね、目を合わせてくんされんとですよ。それで、もうショックやったですよもんね、ああ自分の気持ちというのは届いとらんとねて思ったわけですね。しかし、これ私の勘違いやったですよもんね。終わってから、私のところに学生のわあっと来たとですね。そいぎ、即座に反応をせんわけですよ、今の学生さんは。自分の気持ちの中でそしゃくばして、もう必ず行きますて、自分も行って手助けになるのと同時に、その現場でしかわからんことがあるというのは、きょうの話で理解できましたと、これはうれしかったですね。ですので、私が大事かところは、これは行かれた8人の議員さんたちもぜひお願いをしたいのは、やっぱり火をつけてはしかとですよ、火を。やっぱり行っとらん人はなかなか火つけられんですよもんね。行った人が火をつけて、山口昌宏さんがあそこの東川登小学校でしたよね、小学校1年生の子どもに火をつけるとですよ。普通やぎ、山口昌宏さんなんか見もせんですよ、そうばってんが、小学生に火をつけて、それがわあって広がるとですよもんね。その役割が今回のチーム武雄

の皆さんたちにあるというふうに思っておるわけですね。ですので、私は京大に、先ほど質問で答えましたけれども、そういうことが必要、最後にしますけれども、とにかくボランティアが圧倒的に不足しています。これはユーストリームで流れていますので、ぜひこれから長期戦になります。場合によっては10年、20年かかりますけれども、思いをぜひ、ユーストリームをごらんになっている皆さんたちも、行って思いを持ち続けて、自分ができるときにしてくんさるぎよかとですよ。何が何でも今行けじゃなくて、ですので、そういうことをこれからも言い続けていく必要があるだろうというふうに思っております。ぜひ朝長議員におかれましても、御自身が経験されたことを市内とか市外、幅広いネットワークもお持ちですので、おっしゃっていただければありがたいと、このように思っております。

## ○議長（牟田勝浩君）

### 1 番朝長議員

## ○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

ありがとうございます。

私もきょうの市長のブログを拝見させていただきまして、私も親のすねをかじらせていただいて、大学には行かせていただいたんですけども、やっぱりそのころそういう経験を積むというのは非常に有意義な経験になるんじゃないかと感じました。私も大学のころは余り何も考えとらんやったですもんね、正直言ってですね。汗水垂らして被災者の方に寄り添うというのは、被災者を助ける意味もありますけれども、その本人にとっても、人生にとっても本当に貴重な体験になるのではないかなと思います。それで、武雄にもお子様が大学に行っている保護者の方とかいらっしゃると思いますので、ぜひ親御さんの方とか子どもさんにボランティアに行くように働きかけ等をしていただけると、本当に人間が大きくなるといいますか、考え方が変わると思います。非常に貴重なことだと思います。

そして、あともう1つ、支援活動の3日目やったですかね、私たちは限られた時間やったけんですね、雨が降ろうがやりが降ろうが、かっぱ着てでも頑張るくさんという気持ちで行っておいりましたけれども、3日目雨が降り出して、そいぎかっぱ着てせんばのと思っておりましたけれども、そこで大友さんの奥さんがおっしゃった言葉が非常に印象に残ったというか、ショックを私としては受けたんですけども、「皆さん、放射能の雨が降ってくるけん、もうやめてください」、非常にショックでしたね、私それを言われたときが。こういうところでもそういう何といいますか、心配というんですかね、何キロ離れているかちょっと調べてこなかったんですけども、全く考えてなかったんですけども、放射能の影響がどれくらいあるかというのを。そこで雨が降った途端に、放射能の雨やけん、やめてくださいと言われたときに、ああそういうところでも苦しんでいらっしゃるといいますか、本当に話を現地に行って聞いてみないとわからないなと感じさせていただきました。そして、膨大な復旧に向けての作業を考えた場合に、継続的な支援、本当に息の長い支援が必要だなと感じさせてもら

いました。

それと、やはり武雄で災害が起きたときどうするか、武雄でどういう災害対応体制が必要なのかということも考えさせられました。それで、武雄市では災害姉妹都市構想とか原発の事故についての防災計画等、先日の山口等議員の質問の際にかなり詳しく話をいただいておりますので、ここでは補足的な質問をさせていただきたいと思っておりますけれども、これも災害支援に行って初めて思ったことなんですけれども、やはり一回行くと、また行きたいといひますか、また同じところに行きたいと思うわけですね。あの人を助けに行きたいといひか、具体的に相手の顔が見えるといひのは非常に大事なことだなど。息の長い支援を続けるといひの意味におきまして、やはり自治体同士のつながり、さらに市民レベル、個人レベルでのつながりをつくっていくといひことが、数年にわたる長い期間、支援を続けるためには非常に重要なことではないかと感じさせてもらいました。

それとあと、先日の質問でも修学旅行等の話が出ておりましたけれども、先ほど言いましたように、息の長い支援をしていくにはやはり今子どもたちが大人になったときもまだ支援が必要といひ状況も十分考えられるような状況でございます。そして、やっぱり子どもたちにとっても、被災地の苦勞等を自分の目で見えておくといひのは非常にいい経験になるんではないかなと。そして、被災地の子どもたちと武雄の子どもたちが交流して、人と人のつながりをつくっていくといひのも復旧支援だけでなく、その子どもたちの人生にとっても非常に有意義なことではないかなと感じております。

それで、姉妹都市構想に関連してなんですけれども、例えば、中学生等の修学旅行で仙台など被災地を研修先として選んでいくような対応ができないかと考えたんですけれども、これについてはどういひお考えをお持ちか、御答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、福島第一原発から仙台までの直線距離は94キロです。あの94キロ、まあおよそ100キロですよね。100キロの中で、雨の降ってきたときに、あれ防災無線の流れよったですもんね。今雨の降ってきたけんが屋内に入ってくださいとか、あるいは、大友よし江ちゃんが血相を変えて、もう雨の降りよるけんが、でもあるとき結構終わっとったですもんね。もう夕方4時ぐらいで、だんだん暗うなりよったときに雨のわあっと降ってきましたので、もう作業はここまでにしてくださいと。100キロ離れて、あれですよ、雨の降って放射能雨といひられるわけですね。これやっぱり行ってみらんぎんたわからんと思ったですね。

その中で考えたのは、災害姉妹都市を結ぼうと思ったきっかけが、この放射能の雨なんですよ。まあほかにもありますけれども、やっぱりパニックになるわけですね。ですので、そういう避難も含めてどういひふうにしよるかといひことが一つの現場からの体験でそういうふ

うに思ったというのは議員と同じです。

それで、修学旅行なんですね。本当は教育長と話をして、ことしからというふうに思ったわけですね。しかし、余震の問題であるとか、衛生上の問題であるとか、宿泊地の問題であるといったところに、やっぱり保護者の気持ちを考えた場合には、ことしは拙速でしょうということを教育委員会から私のほうに言われました。それはそうだと思って、ただ、教育長も理解をされていますけれども、寺社仏閣は後でよかです、寺社仏閣は。それよりか、例えば仙台、私も仙台、賛成です。仙台に行ったときに、被災地、だって仙台の市内から11キロしたら、もう町が崩壊しておるわけですね、700世帯流れてとか。そこから20分したら松島ですよ。松島は観光が成り立っておるわけですよ。ですので、全部修学旅行で被災地のある意味悲惨なところだけじゃなくて、観光として頑張っておられるところも行って、自分がこういうふうに体感するというのが私は修学旅行の本当の意味だと思いますよ。ですので、実際予算面の問題等もあります。ありますが、私はぜひ次、子どもたちに行ってほしい。これ議員がおっしゃったとおりなんですね。やっぱりだれに聞いても10年、20年かかると言うわけですよ。そいぎ、今12歳の子が10年たったとき22というぎんたですよ、もうまさに投票権を持って、社会の中核になる一歩手前ですもんね、一歩二歩手前ですもんね。そういうところでぜひやっぱり行ってほしいというふうに思うわけですね。その子たちが大人になったときに、自分のこととして何ができるかということを経験してほしいと思いますので、修学旅行に関しては、これは教育委員会の専権ですし、私がとやかく言う——言いますが、これは絶対に実現させたいというふうに思いますね。

以上です。

## ○議長（牟田勝浩君）

### 1 番朝長議員

## ○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

今回は修学旅行という項目で思いついて提案させていただきましたけれども、やっぱり今からいろんな交流の仕方があると思いますので、子どもたち、そして私たち大人がどういう交流ができるのか、そしてどういう支援を続けていけるのかというのを今から考えていかなきゃいけないなと感じております。

それで、あと放射能漏れの件についてですけれども、佐賀県も玄海原発があるということで、原発そのものについては決定を下す立場にはありませんので、まあ放射能漏れの事故が起こったらどうするか、やっぱりそういうことについてはいろんな検討をしていく必要があるんじゃないかと考えます。これについても防災計画で今から検討されるということですが、私なりにちょっといろいろ調べてみたところ、非常に気になる言葉といますか、放射能の何とかベクレルとかシーベルトとか出てきますけど、本当はどこまでが危険で、どこまでが大丈夫なんだという話が、なかなか目に見えないものですし、わからないと。情報

が錯綜しているようなところもあって、ちょっとどこかで見かけた分が、公式発表が一番信用できないとかいうような記述もどこかで見かけたりして、どう対応していいかというのは非常に難しいと思うんですけども、あと、ちょっと見つけた記事が、武田邦彦さんといって、中部大学の教授がいらっしやって、結構テレビとかでも出ていらっしやるので御存じの方多いかもしれませんが、行政がやることがあるとしても、やはり一人一人が自分の身を守るという意味で、放射能の被曝を減らすための努力といいますか、活動、できること、市民レベルでできることというのを整理しておく必要があるんじゃないかと思います。

実際に福島のほうでは、PTAとか消防団とかが協力して溝掃除などをして、ホットスポットですかね、放射能が低いところにたまりやすいという傾向があるということで、地元の消防団やPTAが協力して溝掃除等をして子どもたちの被曝量を減らすというような取り組みも行われているようです。やはりそういう市民が自分たちでできることというものについても、ある程度整理をしていく必要があるんじゃないかと思いますけれども、その辺について、この対応をお尋ねいたします。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

恐らく今やっぱり混乱しておるわけですね。シーベルトとかシューベルトとか、いろいろ混乱しておって、なかなかわからんわけです。ある数値だったら我々はいいだろうと思っても、やっぱり学者、例えば武田先生は厳しかですもんね。他方で、中川先生だったら大丈夫とかというふうになるわけですね。ですので、何を申し上げたいかということ、やっぱり落ちつくまでもう少し時間がかかるですね。今何でんかんでん悪かというふうになつとるですもんね。ですので、それはもう少し時間が必要だろうというふうに思うことと、もう1つ、市民の皆さんたち、議員の皆さんたちに呼びかけたいのは、やっぱり話を聞いてほしいということなんですよ、いろんな立場の人の。

一つ私から報告を申し上げますと、来月7月2日土曜日の13時から山内町の農村環境改善センター、上の上ったところですね。支所の近くの農村環境改善センターで、放射線がんの中川恵一先生が講演をしんさるわけです。いっぱいテレビとかにも今出よんさるですもんね。この中川恵一先生が原発の放射能に関しても自分の見解を言うということ、あるいは世界的な潮流について言うと、原発の是非じゃなかですよ、この放射線ですよ。人体に与える影響がこんくらいだって、あるいはこれは大したことがないとか、これは大したことがあるということの中川先生言うというふうにおっしゃっているんですね。ですので、もちろんこれは主軸はがんの撲滅の講演なんですけれども、その中で割合多く今回の原発の放射能の人体に与える影響について述べられるということですので、ぜひお越しいただきたいというふうに思うわけですね。

やっぱり今いろんな情報があって、恐怖感というのを私も感じます。ありますが、やっぱり正確なことを知った上で、ただ、中川先生の話だけ聞けばよか話じゃなかですもんね。でするので、例えば、さっき話が出ました武田先生とか、いろんな方々の話を聞いて、自分なりに思いを持っていく。それと、大事なのは、もう少ししたら、あと二、三カ月したら、遅かと言われるかもしれませんが、国のほうでも放射能の基準を立てようという話を私も聞いておるとですよ。やっぱり余りにもいろんなことを言うて、あれは文科省がいかんやったね。1ミリシーベルトを20に上げたでしょうが、それでまた戻しとるですもんね。ああいふことをするぎいかんとですよ。でするので、先ほどありましたように、公式見解が一番当てにならんというのは私も聞いていますけれども、ただ、公式見解を言われんぎんと、我々もなすすべがなかわけです。でするので、もう少しここは時間がかかるのかなというふうに思っております。7月2日土曜日、13時にお会いしましょう。

以上です。

**○議長（牟田勝浩君）**

1 番朝長議員

**○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕**

あと、日ごろできる放射線に関する取り組みとして、山口裕子議員の質問でも出ましたけれども、サーベイメーターですか、武雄でも日ごろから日常の放射線というのがどのくらいあるのかというのを数字で市民が知っておくというのが、関心を高めるという意味でもいいのか。これからいろいろ避難訓練とか防災訓練とか企画というか、計画されることがあれば、そういう実際に市民が計測してみるとか、そういう放射線の数字というのを身近に感じるというような取り組みも日ごろからやっていくと、いざというときに落ちついて対応できるんじゃないかなと考えておりますが、どうでしょうか。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

やっぱり議会というのはいいですね。サーベイメーターを市費を使って購入したいとしたら、これは名前は絶対言うなと言われましたので言いませんけど、ある市民の篤志家で、ぜひそれは自分たちで買わせてくださいということで、それを市に寄贈したいということの申し出がありました。やっぱり武雄市議会ですよ。私が何ぼ言うても、なかなかそれは市民の気持ちに伝わらんですけど、やっぱり議会を見よんさるわけですよ。それで、貴重な税金です。放射能といったときには、もし50万円なら50万円、100万円なら100万円というのはほかに使ってくださいと、市民の福祉向上につながることに使ってくださいと、私がつてのあるけんです。それで私が買ってすれば寄贈しますということがあります。

です。です。そういう意味では感謝申し上げますとともに、やっぱり知るというのはすごい

大事だと思うんです。ただ、先ほど再三言いますけど、数字を見てもわからんわけですね。僕もわからんし、市民の皆さんもわかりませんので、この数字の意味するところもしっかり、さっきの公式見解も含めてそうなんですけれども、それもあわせて出してもらう、あるいは出す必要があるのかなというふうに認識しております。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

それでは、これに関してはやはり国のほうで基本的な大きな方針は出してもらわないと、なかなか各自治体の動きがとりづらいということはあると思いますけれども、順次体制を整えていくというのが必要だと思います。

それでは、次の質問に移ります。

特産品開発についてということで通告をさせていただいておりましたが、具体的な内容としてはレモングラスに関して質問をさせていただきたいと思います。

レモングラス課というのはもう既になくなってはおりますけれども、今非常に不景気といえますか、今回の大震災の影響あるなしにかかわらず、非常に地方の経済は低迷していて、商売をやっている方、会社を営んでいる方、先が見えない、そういう状況で、失業者の方もなかなか職が見つからないと、そういう状況が続いております。そういう中で、市民の人たちが希望を持って生活していくためには、やっぱり頑張って努力すれば報われるといえますか、働く場所の確保というのが非常に大切になってくると。そのレモングラスの取り組みというのは、いろんな目的はあるかと思いますが、雇用の場の確保という目的も当然あったかと思いますが。これレモングラス自体は民間企業が取り組まれているということで、余り詳しい情報は突っ込んだところまでどうかとは思いますが、作付面積とか売り上げの推移等を可能な範囲で教えていただければと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私からお答えしたいと思います。

（パネルを示す）まず、やっている方々なんですけれども、農事組合法人武雄そだちレモングラスハッピーファーマーズで、これは3年前、平成20年の2月に設立をされております。作付面積の推移は、平成20年が1.9ヘクタール、平成21年が2.1ヘクタール、平成22年が2.4ヘクタール、平成23年度が3ヘクタールを予定しています。売上高の推移は、平成20年、これは半期になりますけど、570万円の売り上げでスタートをして、平成21年は約2,000万円、平成22年は約2,400万円となっています。生産者、雇用者数については、大きく2カ所なんですけれども、まず農事組合法人武雄そだちレモングラスハッピーファーマーズの会員の皆



さんなんですけど、朝日町、中野みつば集落営農組織の皆さんが主にやっておられます。これは現在、この組織の副会長の岩永敏雄さんがハッピーファーマーズの代表理事を務めておられて、地元の皆さんたちと一緒にやっておられるというのがまず1つです。

(パネルを示す) それと、もう1つなんですけれども、これは若木町川内なんですね。藤川昇さんと協力者、もうしょっちゅう雑誌でこうやって取り上げられるんですけれども、これは平成23年3月に佐賀県が発行した「さが棚田だより あぜみち」に掲載をされています。この地区の耕作放棄地や遊休農地の利活用をして、60アールのレモングラスの栽培を行っておられます。この地区で栽培されるレモングラスは品質が良好で、今後は若木町の棚田を中心に契約栽培農家をふやしていく方針だそうです。

ですので、大きくこの2つでやっておられるんですけれども、22年度の実績として、農業法人の生産加工販売部門で通年雇用が4人、期間・パート約20人を雇用されておりますので、これが今後、これだけ不況になっても伸びているのは伸びているんですね。これはうちの特産品課の秀島課長が中心に今弦巻と一緒にやっておりますけれども、私のところに入ってくる情報もかなり需要がふえてくるようです。ですので、それにのっける形でこちらの生産体制も充実していく必要があるだろうというふうに思っておるんですが、ただ、余りいたずらに広げようと思っていないんですね。やっぱりJASに認定された有機が基本ですので、そこは勇気を持って、なるべく品質の確保をちゃんとやって、これがブランドにつながっていくようにしていきたい。ただ、これはレモングラスにとどまるだけではなくて、何度も言っていますけど、これは旗艦産業なんですね。フラッグシップのこちらの旗艦ですので、これと一緒に、例えば、橋下のイチゴであるとか橘のお米であるとか、さまざまところと一緒に持っていけるような、やっぱり武雄といえはいろんな元気な野菜があると、果物があるというふうに持っていく一つのフラッグシップだなというふうに思っておりますので、そういう意味での御理解と御支援をお願いしたいと、このように思っております。

#### ○議長（牟田勝浩君）

1番朝長議員

#### ○1番（朝長 勇君）〔登壇〕

ありがとうございます。

着実に作付面積、売り上げ等伸びているということで非常に喜ばしい限りでございますけれども、あと、実際に出荷先、納品先とか、あと提携先とか、今どういう動きがあっているのかというのをかいつまんででも結構ですので、御説明いただければと思います。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

ある人がおっしゃったんですけどね、例えば、嬉野茶って歴史800年なんですね。人によ

っては600年とかいう言い方もする人がいるんですけど、栄西さんが持ってきてお茶が一気に広まって、武雄はたかだかまだ実質3年か4年なんですね。ですので、そういう意味でいうと、嬉野茶の関係者の方がおっしゃったんですけど、これほど驚異的な伸びをしているのは私は見たことないというふうにおっしゃったんですね。まあ賛否両論ありますよ、あるんですが、伸びからすれば、うちも800年たったときはレモングラス王国ができるように、ならないと思いますけど、したいと思うんですが、その中で、先ほどの質問にお答えしますが、出品・納品先でポイントが幾つかあるんですけど、伊勢丹新宿本店、この伊勢丹がやっぱり大きかったですね。伊勢丹に卸せたというのがインパクトがありました。岩田屋、福岡大丸、佐賀玉屋、生協関係ではグリーンコープ、らでいっしゅぼーや、原材料納品の大口取引先としてお茶メーカーの菱和園、名古屋とハーブ専門店の南阿蘇のクマモト敬和さんなんですけれども、ここからがポイントで、これから多分ブレイクしますけれども、ことし4月に株式会社浜勝さん、とんかつの。武雄市のレモングラスによる地域活性化が評価されて、私も会長さんにお目にかかりましたけれども、浜勝ハーブ物語でハーブ豚とハーブティーのコラボで全国展開になります。今は福岡だけですけれども、今全国展開の準備を進めておられて、やっぱり格好よかですね、（パネルを示す）こういう感じになるわけですよ。うちでつくったのと大違い。これね、すごいのは浜勝は全国に111店あるんですよ。それで、ことしの4月に、先ほど申しあげましたけど、福岡市内の10店舗でレモングラスティーはメニューの一つとなって出されて、非常に好評だそうです。委託販売も行っておられます。秋には、先ほど申しあげましたように、111店、全国展開の計画がありますので、この機会にさらに一つのブランドになるのかなと思っています。

それと、最後にしますけれども、起爆剤になったのは、これです。（パネルを示す）やっぱり伊勢丹ですね。伊勢丹の上野奈央さんという女性バイヤーが評価をされて、新宿伊勢丹本店の高級紅茶専門店リーフルに伊勢丹ブランドとして販売をされています。3年連続伊勢丹本店で、というのも極めてまれですけれども、毎年夏にフレッシュレモングラスフェアの催事を行っています。ことしは7月と8月の2回のフェアを依頼されていますので、またこれを中心として、私も行こうと思って、一緒に行かんですか。行って、また売り子をして、トップセールスをしていきたいと思います。要はつくっている人、あるいは市を代表する人が行くと、やっぱり売れるわけですね。ですので、そういう意味からすると、さらに伊勢丹というある意味頂上、それとさっき言った浜勝もある意味頂上ですもんね。それともう一つ大事なものは、スーパーとかいろんなところの、本当に市民の皆さんたち、県民の皆さんたち、国民の皆さんたちに触れ合うところにも出していくということが必要なのかなというふうに思っていますので、今後そういったことも考えてやっていきたいなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

## 1 番朝長議員

### ○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

本当に夢が広がるというか、ぜひ武雄を引っ張る特産品として発展させていっていただきたいと思います。

そして、やっぱり最終的には地元の企業とか農家の方からすると、自分もできんとやろうか、自分も携わってみられんとやろうか、そのためにはどがん条件ばクリアすっぎよかとやろうかという話が必ず出てきますね、企業の多角化とかで検討されたりもすると思います。いたずらに作付面積をふやすということはしないとおっしゃっていますが、やはり生産者は生産者として優良な生産者を育てるという意味でも要件的なものはある程度皆さん知っていただいて、検討していただくというのは必要じゃないかなと思いますので、レモンガラス生産に携わってみたいという人はどういう要件をクリアすればいいのかという、その辺の話をお願いします。

### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

### ○樋渡市長〔登壇〕

要件等は特になんですけど、ここで注意しなきゃいけないのは、私も兼業農家のせがれで、ミカンですよ。ミカンは昭和50年代の当初、これからミカンののはやるばいとかいうて、うちの親父もじいさんも、ミカン、ミカン、ミカンやったですもんね。そいぎ、どこの家庭も、農家の皆さんたちもミカン、ミカンですよ。そしたら、何が起きたかという、大幅な生産供給過剰と価格の暴落ですよ。私はいまだにミカンの捨てられた裏山が夢に出るぐらいなんです。ミカン好きですよ、好きですけど、だから、それを思い出したときに、やっぱり経験に学ばばいかん。どういうことかという、いたずらにつくるぎ、暴落が始まるわけですよ。そいぎ、せっかく今やっていきよるとが共倒れになる危険性があるわけですよ。ですので、何が大事かというとは、やっぱり先ほど申し上げたとおり、需要ですよ。需要を見ながら徐々に広げていくということですね。私が一番苦手なのは拙速なんです。ですので、そこは慎重に慎重に慎重にして広げていったときに、ああみんなが入ってこれたというふうにしたい。ただ、これは食用だけじゃなくて、例えば、入浴剤とかいろんなのに使えますもんね。そうなってくると、これは言い方は悪いかもしれませんが、食料品ほどシビアにする必要なかわけですよ。やっぱり口に入るものというのは最上に気をつければいいですもんね。ですので、例えば、これが防虫剤とか殺虫剤の用途に広がっていったときには、それはやっぱり一気に広げていかれるというふうに思いますので、我々も発想を幾つでも持つておく必要があるだろうというふうに思っております。

### ○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

## ○1番（朝長 勇君）〔登壇〕

どちらにしてもまず需要の拡大といいますか、やっぱり足らん、足らんというような状況に早うなってもらいたいと思います。

あと最後に、さっきちょっと出ましたけど、佐賀県のほうで発行されている「さが棚田だより あぜみち」というのがありますけれども、これですね。（資料を示す）この記事をちょっと紹介させていただきたいと思います。読むと長いですので、項目だけですね。

「レモングラスで新しい産地づくりにチャレンジ」と書いてあって、「川内地区の棚田」。

遊休農地活用でレモングラス栽培、高収入が期待できる農作物、人気の棚田産、栽培面積を拡大、生産・加工・販売の拠点ハッピーファーマーズ、売れる商品づくりがやりがいのある農業にということで、非常に頼もしい記事が載っております。

その最後の文章をちょっと読ませていただきますと、「生産者にとって丹精込めて育てた農作物が消費者から喜ばれ、売れることは何よりもうれしくやりがいにつながります。棚田を棚田として生かしながら売れる農作物をつくって、後継者を育て、地域を活性化していく、そんな理想的な農業の未来がレモングラスで実現する日が来るかもしれません」と書いてあるんですね、最後。ぜひこの「かもしれません」を削除できるように、頑張らんといかんと思うんですけれども、現状を踏まえて、今後の、まあレモングラス課はなくなったにしても、方向性といいますか、武雄市としても側面から金かけんでもやれることはあると思うんですよ、支援策というのは。そういう意味で、武雄でレモングラスをどう育てていくかという大きな方向性等があればお願いします。

## ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

いや、まさかレモングラスが棚田でこれだけなるというのは夢にも思わんやったですね。全く期待しとらんやったとですよ。すみません、藤川さん。それともう1つ、何で棚田がいいかという、水はけの問題もあるんですが、もう1つは若木の川内ですもんね。そいぎ、寒暖の差が非常に大きいということで、まさか寒暖の差が大きいからレモングラスの香りが増すとか味が増すなんていうのはやってみらんぎわからんわけですね。これは100の議論より1の実行のいい例だと思います。もうさんざん言われたです、始める前。もうそがん若木でしてもだめばいとか、いろいろ言われましたけど、やっぱり余り専門家の言うことをうのみにするぎいかんというのがよくわかりました。ですので、やってみてだめやったらやめればいいし、やってみてよければ伸ばせばいいしということで、これはいい例になったと思います。

それで、今後なんですけれども、やっぱり中山間地、あるいは耕作放棄地、ここはいまだにふえよるですよ。これを全部レモングラスで埋めるということは不可能にしても、一つ

の武雄モデルとして出していききたいというふうに思います。だから、例えば、お隣の市が町がレモングラスじゃなくてほかのハーブでもよかわけですよ。余りレモングラスばかりつくってもらうぎ困るけんが。例えば、ある市はレモンバームとか、ここは何とかというふうにして、武雄モデルをつくっていききたいというふうに思っています。

それと大事なのは、やっぱり顔の見える関係です。ですので、地元農家との契約栽培という形で生産者と栽培面積を徐々にふやしていこうというふうに思っています。そして、側面支援になりますけれども、やっぱり行政のかかわりというのはすごい大事なんですね。皆さん一生懸命されていますし、この行政のかかわりがなくなった時点で、私は武雄のレモングラスというのは一つの大きなブランドになるというふうに思っていますので、もう少し秀島課長と弦巻、両山内コンビには頑張ってもらおうというふうに思っています。えらいですよ、土日も行きよるわけですよ。大体土日に秀島に電話するぎんたかからんですもんね。なしかというぎ一緒に作業ばしよるとですよ。しかも、電波の弱かところで。ですので、そういう意味ですると、やっぱりうちの職員もすごいなというふうに思いますので、ぜひそういう意味で、いろんな採用の話とか言う人もいますけど、御理解と御協力をお願いしたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

私もこの質問をするに当たって、特産品課のほうに行って秀島課長からいろいろお話を伺ったんですけれども、本当に愛情を込めて一生懸命やっていたらっしゃるんですね。本当にありがたいといえますか、そういった取り組みがぜひ大きく実を結ぶことを願いながら、次の質問に移らせていただきます。

次はお結び課についてなんですけれども、このお結び課の取り組みというのは、今回、武雄の長期的な発展といえますか、まちの活性化を考える上でも、また本人さんの幸せを考える上でも非常に大切な取り組みだと感じております。まだ今年の9月に立ち上げて、それから準備を始めてということで、まだ期間としては短いかもしれませんが、登録者数等の実績、男女別の数字等を教えていただければと思います。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

お結び課につきましては、先ほど議員からおっしゃっていただきましたように、平成22年の9月に設置をいたしたところでございます。9月から今日まで約9カ月が経過しているという状況でございます。

登録につきましては、1カ月の準備期間を経まして22年の10月から受け付けを行っている

ところでございまして、現時点で男性が160名、女性が91名、総計で251名を登録している状況でございます。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

251名登録ということですね。どうですかね、非常に好調といいですかね、私の想像からいくと、数字的には非常に伸びているのかなと思うんですが、この中でお見合いまでしたというような事例があれば、どれくらいあるのかということをお聞かせ願えればと思います。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

お結び課の取り組みにつきましては、お見合いを中心に取り組もうということで取り組んでおりまして、お見合いにつきましては、ことしの1月から取り組みを実施しているところでございまして、現時点で27組を実施しているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

27組ということで、すごいなという、本当に一生懸命取り組まれているんだなと思います。27組、お見合いがということですね。その先というのは、なかなかこれはプライベートな問題で、なかなか突っ込めないというか、難しい面もあると思います。とにかくこれは焦ってもですね、焦って結果だけ求めてもちょっといけないようなたぐいの問題ですので、ぜひこの調子で取り組んでいただきたいと思います。

あと、今でも251名の登録者数ということではあるんですけども、実際これ結構プライバシーがかかわる問題で、実際ちょっと興味はあるばってんが、どがんしゅうかにやとか、あとは皆さん仕事をされていて、なかなか平日昼間とか行きにつきとか、そういうことが原因で登録を見送っていらっしゃる方とかもおられるかもしれませんので、例えば、休日とか時間外についての対応がどうなっているかをお聞かせ願います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、さきの答弁にちょっと補足しますけれども、27組のお見合いを今実施して、12組の方が交際中なんですね。また、現時点で5組がお見合いの予定になっている。これはやっぱりお結び課はすごかですよ。きょうもお結び会員の方が、中島さんもお見えになっていますけどね、——そがん、みんな見らんでよかですよ。やっぱり古川課長初めとして、さっきの

質問にもありましたけれども、対象者のほとんどの方が就労されている、働きよんさるわけですね。そしたら、登録面談、紹介業務とか相談対応を時間外や休日に希望される方がやっぱり多いんですね。ですが、希望が余りにも多いんですよ。ですので、すべての方を要望どおり時間外とか休日はちょっと不可能ですので、なるべく事情等を考慮し、必要と判断される方については時間外で対応していますけれども、ここでお願いは、それ以外の方はぜひ時間内の来庁をお願いしたいということなんですね。やっぱり時間外が多かたですよ。そいぎ、時間内だったら割とゆっくり話ができるというメリットもありますので、ぜひ万障お繰り合わせの上、それはお願いしたいというふうに思っています。

ただし、お見合いについては二人の都合を調整し、日時を決めることになるため、ほとんどが時間外、休日対応であります。時間外、休日の対応は経費節減のため、原則、古川課長が対応されていますので、もう命をささげておられます、古川課長は。それもぜひ議員の皆さん、市民の皆さんたちにも御理解と応援をお願いしたいと思います。

そこで、お願いは、こういうお結び課があるよというのをぜひ議員の皆さんたちから地区の皆さんたちに広げてほしかわけですね。そういうことで、さっき答弁があったかもしれませんが、どうしても男性の比率が高かたですよ。登録の男女比が男性が63.7%、女性が100引く63.7やけんですよ、女性が36.3%ですもんね。ですので、その幅を、多様性の確保という趣旨からもぜひお声がけをお願いしたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

あと、私は対象外ですけども、登録する人の立場になって考えると、ちょっとお結び課に頼んで結婚したというぎ、ちょっとちゃーがつかにゃというごたるところですね、人によってはおんさるかなと。その辺、ゴールインまでしたら、お結び課でばあっと公表してということはなかたでしょうけど、その辺のプライバシーの扱いについてあればお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはもうおっしゃるとおりですね。プライバシーについては最大限尊重して、公表等については御両人、あるいはその御家族の皆さんたちのきちんと御意思を確認した上で、これも拙速はだめです。ですので、そういうふうに十分配慮しながら進めてまいりたいというふうに思います。ただ、今ちょっと時代が変わって、ぜひ公表してねというとも結構あるとですよ。それはその御本人の意思をそういう意味でも尊重してやっていきたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

## 1 番朝長議員

### ○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

本当に気を使いながら、非常に難しい問題に取り組んでいらっしゃると思います。

それで、なぜ私がこの場でお結び課について質問を取り上げたかといいますと、私のところにあるお母さんから相談がありまして、お結び課に頼んどるばってんが、何もしてくんざらんでいうてから私のところに来んさったわけですね。いや、その何もということは幾ら何でもなかろうと、そいぎちょっと話ば聞いてくるけんということで行ったところ、古川課長に丁寧に対応していただきまして、本当に今市長の話にもありましたけど、一生懸命しよんさるですね。休みとかも意識せずに、いつでもやるばいという感じで、非常に豪快な性格といいますか、気さくな方で、楽しく話をさせていただいたんですけども、その中でも細かく話をしていくと、プライバシーとかに対する気配りというのが非常に繊細にやっておられるというのは話してみて感じました。ということで、本当に一生懸命やっておられるということをぜひ皆さんにも知っていただきたいなど。個人情報ということもあって、一生懸命しよんさるとにそれをみんな知らないで苦情が出るというような状況がありましたので、この場で質問に取り上げさせていただきました。本当にしっかり古川課長初め一生懸命やっいらっしゃいますので、もし登録を迷っている方がいらっしゃったら、ぜひ迷わずに登録をお願いしたいと思います。

次の質問に移らせていただきます。

みんなのバスについてですけれども、大体の状況等については先日の山口等さんから質問がござっておりますけれども、まだ実験運行というか、試験運行、これも名前がいかにという話もあつたんですけれども、今の時点で市民の方から等の評判といいますか、どういう声が届いているかというのをお聞かせ願いたいと思います。

### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

### ○樋渡市長〔登壇〕

評判については個々ありますけれども、私からはアンケート結果の概要を申し上げたいと思います。

平成22年度の実験運行終了後に実施したアンケートの結果、みんなのバス利用者の約9割の方が実験運行についてよかったとの回答です。9割の方がよかったという回答。それと、みんなのバスの利用者の約7割の方が外出の機会がふえたと回答されています。総じていい評価だと思いますけれども、その中でも圧倒的に多かったのは病院の通院や買い物などが便利になったという回答ですよね。それともう1つが、外出しやすくなり、人と会って話をする機会がふえてよかったという声が聞かれています。そういった意味から、これはやってよかったかなというふうに思っています。



ただ、声で、いやうちの地区も通してほしいとか、もう少し時間を考えてほしいとかというのがありますので、それは全部には対応できないかもしれませんが、きめ細かく聞いて、できることはきちんとやろうというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

あと、先日の、またこれも山口等議員の質問の際にもありましたけれども、やっぱりコストの面というのがどうしても避けて通れない問題だと思いますけれども、今試験運行で1 試行当たり3 カ月での運行経費の実績と、あと利用者数の概要等がわかれば、そこまでお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

みんなのバスの実績でございますけれども、平成22年度に行いました実験運行につきましては、トータルで1 便当たり1.9人という数字になっております。地区によっていろいろ利用者数が異なりますので、全部でという形で報告をいたしているところでございます。

あと、運行経費につきましては、22年度分が601万9,000円ちょっとということでございます。これにつきましては、緊急雇用の創出事業を活用しておりますので、全額国のほうからいただいて運行しているという状況でございます。

ちなみに、23年度は5月だけの実績でございますけれども、全部を平均して1 便当たり2.4人の実績が上がっています。経費につきましては、まことに申しわけございませんが、まだ出しておりませんので、改めて後でお示ししたいというふうに思います。（発言する者あり）

1 便当たりの平均だけ申し上げましたけれども、利用者数につきましては、平成22年度で山内町の今山で1,389人、船の原で381人、立野川内で481人、北方のほうで1,405人、若木のほうで568人、武内のほうで809人、合わせて5,033人の方に平成22年度は御利用いただいているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

私もおくれればせながらですけども、先日、一回乗ってみようということで、武内地区のほうで一回乗せてもらいました。残念ながら、平日の一番最終便ということで、地元の方はだれも乗っていらっしやらなかったんですけども、その分運転手の方にいろいろお話を聞かせていただきました。それと、あと運行経路を見て感じたのが、地元をべたっと回るわけ

ですね。よかとかかと、何々様宅前、何々様宅前ともう個人の、こがしこ人のおんさるとねいうごたる、それを見ればわかるごたる、非常に密着型というか、ああなるほど、乗ってみてわかりました。運転手の方も利用されている方には非常に好評いただいているということでした。

コストの面もまだまだ今の時点では多分1人当たりとか勘定してしまうと、高いような感じになるのかもしれませんが、やっぱり乗ってみて思うのが、いろんなコスト削減の方法とか、その他の活用というんですかね、パトロールとか、それとやっぱり武雄自身のイメージアップにもつながると思いますし、安心して住みたいまちというようなイメージをつくる、あと地域コミュニティの活性化とか高齢者や弱者の見守り、そういういろんな副作用というんですかね、が期待できるなど感じて乗らせていただきました。

先日、もうちょっと試験運行なんて言わずに、とにかくやりますよということで市長のほうから答弁が来ていますので、これ以上私のほうから、それはそれでまたいろんな工夫をしながら活用策を検討していくと、もっといいみんなのバスになるなど感じたところでした。

それで、そのイメージアップに絡むんですけれども、以前、みんなのバスにふさわしい親しまれるデザインというんですかね、絵柄、バスのデザインについて何かちょっと検討するような話があったような気がするんですけれども、その何か進展等があればお聞かせ願えればと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お答え申し上げます。

さきの答弁で申し上げたように、まだこのバスが例えば立野川内とか北方とかいうのはまだ決まっとらんわけですね。それが決まった時点で、できればその当該小学校の皆さんたちに絵をかわってもらおうと、ペインティングしてもらおうということも考えていますし、場合によっては、いやこれは自分たちのバスやけんが、これは老人会でかくばいということがあれば、一球入魂とかですね、それはそれで私はいいいと思っていますので、バスの帰属先が一定決まったときに、そこの地区にお諮りしようと、特に区長さんにお諮りして、いや私のところは小学校と、いや私のところは例えばさっき申し上げたように、老人会とか婦人会とか、きょう川良の区長もお見えですけれども、そういうふうにしていきたいなというふうに思っています。ちょっともう少し時間をいただければありがたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

これからますます本当にみんなから愛されるみんなのバスになっていくよう取り組んでいただきたいと思います。

それでは、最後の質問になりますけれども、市長の政治姿勢についてということで、ちょっと刺激的な質問項目を上げさせていただいております。

これについては、ちょっと今度の6月議会で感じたことが、6月の一般質問の市長の答弁を目の前で聞かせていただいております、何か非常に言葉遣いとか丸くなられたといひますか、非常に丁寧になられたようなイメージをちょっと今回私は思っていたんですけども（発言する者あり）ああ、そうですかね。

質問としましては、きょう今までの質問で取り上げさせていただきましたレモングラスとかお結び課とかみんなのバス、本当にいい取り組み、施策が行われていると思います。やはりそういうのを本当に生かしていくためには、施策のよさと、そして市民の協力というのが必要不可欠になってくると思います。そういうところでちょっと懸念を私が抱いた分がありましたので、質問として取り上げさせていただいたんですけども、まず、最初の市長の選挙のとき、5年前、最初の選挙のとき、住んでよかった、生まれてよかった、そういう武雄市にしたいということで武雄に帰ってこられたと思うんですけど、これを再度といひますか、この志について、今もそのまま変わらないということによろしいでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

変わりありません。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

それで、住んでよかった、生まれてよかったと感じていただきたいというのは、武雄市民全員であるはずと思うんですけども、そこはそれで間違いないでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それは無理ですけども、理想論としては一人でも多くの方がそう思っただくようにするのが首長の務めだし、それを何というんですかね、応援していただくのが議会の責務であると思うし、後で出てくるとは思いますが、業界団体の皆さんたちもそれにちゃんと呼応するのが私は責務だというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

1 番朝長議員

○1番（朝長 勇君）〔登壇〕

この質問の最初のところで、市長の決断力、判断力、行動力というのは他に類を見ないといいですか、物すごい能力をお持ちだと思います。その逆に、決断力、行動力というのが、何というんですかね、市長の日ごろの言動を聞いていて感じるのが、非常に闘争心が強いごたるなど、ちょっとこれは私の感覚ですけれども、だからこそ、負けん気の強さというのが行動力とかにあらわれているんじゃないかなと思うんですけれども、これが政策のよしあしではなくて、ちょっとした言葉遣いとか表情とかで市民が不安を感じる部分があるということで、ちょっと今回はこの質問をさせてもらったわけです。

そういう気持ちで質問を上げさせてもらいましたけれども、私は今回の先週の一般質問等を見ていて、大分何というか、変わられたのかなと、言葉遣いとかですね。ちょっと感じたところもあったんですけれども、とにかくそういう市民が不安を感じているというのは……

〔市長「具体的に言うてくださいよ」〕（発言する者あり）

いろいろとあります。ということで、それについて考えをお聞かせください。（「抑えろ、抑えろ」と呼ぶ者あり）

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

市民が不安ということで、私が答えられるわけじゃないじゃないですか。それだと、私もそれは心外ですよ。例えば、だれそれが、あるいはどの団体がそういうふうに具体的にあつてということだったら私は答えられますよ。ですが、市民が不安に思っているからそれに答えてくださいというのは、それはないんじゃないでしょうかね、どうでしょうか、朝長議員さん。

○議長（牟田勝浩君）

1番朝長議員

○1番（朝長 勇君）〔登壇〕

具体的なきっかけとしては、確かにブログで特定の業界等を取り上げて、こびを売らないというような言葉があつて、それについて私のほうに何かあつたとやろうかということで問い合わせがあつたのがきっかけではございます。

今後の武雄の発展を考えるときに、どうしても理屈では言えない部分が大いとは思いますが。けれども、感覚的な話で申しわけないんですけれども、やはり私たち議員とか、子ども議会等があつたときに、やはり市長とか議員とか、子どもがなりたいたと、一つの職業として選びたいというような、そういう尊敬される立場、そういう立ち居振る舞いというのは、私たちに求められていると感じるわけです。その言葉遣い、表情、そういうもので本当に市民の、具体的な政策もそうですけれども、やっぱり市民がどこで安心するかといたら、市民のことを考えてくれている、そう市民が感じること……

○議長（牟田勝浩君）

朝長議員、政策に関するものを中心にお願いします。（発言する者あり）

朝長議員、市政事務に対する一般質問で、通告の部分も今の趣旨とはまたちょっとかけ離れている部分もありますので。

○1番（朝長 勇君）（続）

わかりました。

そしたら、とにかく武雄の発展のために力を合わせて頑張っていきたいということで、協力して頑張っていきたいと思いますということで、私の質問を終わらせていただきます。